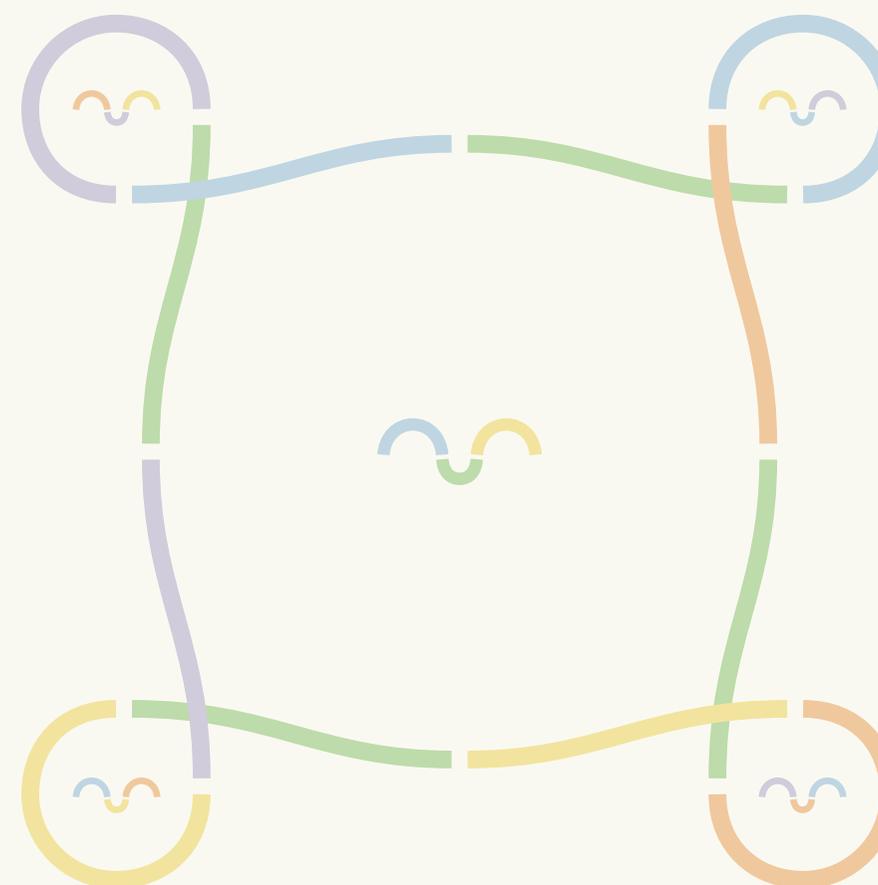


と 一
も 緒
に に
育 笑
つ う

— 保育という仕事 —

LAUGHING TOGETHER
GROWING with OTHERS

WORK of Early Childhood Care and Education





- 02 プロローグ
- 03 私たちの目指す世界
- 05 保育という仕事
- 07 保育者という人
- 11 保育の魅力を考える 保育者 view
- 13 保育の魅力を考える 大学生 view
- 15 保育の魅力を考える 大学教員 view
- 17 保育の魅力を考える 家庭・保護者 view
- 18 保育の魅力を考える 中学生 view
- 19 保育の魅力をみんなで考える
- 21 エピローグ

Prologue

魅力向上・発信事業に応募した理由

私たちが、令和6年度「大学等を通じたキャリア形成支援による幼児教育の「職」の魅力向上・発信事業（「職」の魅力向上と人材確保の好循環を生み出すモデル創出事業）に応募した理由は2つあります。

保育の仕事の社会的なイメージへの違和感

1つは、社会に共有されている保育の仕事のイメージや魅力が部分的で表面的なイメージになっていることに違和感を感じていたからです。「子どもがかわいい」「明るく元気」「お世話をしあげる」「お母さんの代わり」「子どもを預かる」などのイメージは間違いではないけれども、どこか部分的で、保育の仕事の本質を十分に表現されていないように思っていました。

魅力アピール合戦と壁の向こうのできごと

もう1つは、これまでも保育の仕事を紹介したり、その魅力を伝えたりする取り組みはされてきていましたが、ただ一方的に「こんなに魅力がありますよ」と伝達しているように思えました。世の中のどの仕事にもその仕事なりの魅力があり、人材不足と言われる現在、魅力アピール合戦の渦の中で、どのように保育の仕事をアピールしていくのか、という問いに一生懸命になっているように思えます。また、子育て中であつたり、身近に子どもがいる人にとっては、保育を見たり聞いたりすることができますが、そうでない人にとって保育は、見えない壁の向こうにある営みのような感じもしています。

なお、本事業においては、幼稚園（文部科学省）、保育所・認定こども園（こども家庭庁）などで行われる営みを対象として「保育の仕事」という言葉を使用しています。

私たちの
目指す世界



保育の仕事の奥深さや本質に近づきたい

私たちは、まず保育の仕事の奥深さや本質に迫りたいと考えました。そこで、今、保育をなりわいとして働いている人の話に、いねいに耳を傾けていくことにしました。そうすると、子どもを中心に、いろいろな人が出会い、関わり、時間や空間を一緒に生きている。その積み重ねが、保育をつくり、保育の仕事を形づくっている。保育関係者にとっては当たり前のことかもしれない人と人との関わりの大切さが改めて見えてきました。

人と人との間で生まれる魅力

次に、魅力アピール合戦に対する方略を考えました。これが、なかなか難しい。人によって魅力は違うし、一つじゃないようにも思う。魅力がなくなってしまったことが、違う角度から見ると魅力に見えないこともある……多様な価値観が認められ、自分の好きなことを選択できる時代だからその難しさもあると痛感しました。

しかし、あるとき、ふと思ったのです。魅力は、保育の仕事にくっついていて固定的なものではないか。そうではなくて、もっと、動的で、いろいろな人との出会いの中に生まれるものなのではないか。そう思うと、保育が大切にしている人と人との関わりが重要な枠組みとして浮かびあがってきます。

魅力がこだまする保育職ECHOモデルの開発

子どもがいて、保護者がいて、保育者がいる。
保育者になりたい人(大学生)がいて、
子どもや保育を研究する面白さを分かち合う
場所(大学)があり、人(大学教員)がいる。

この人たちは、それぞれの立場で子どもと関わっている人たち。
それに加えて、かつては小さな子どもだった中学生や高校生、その保護者や地域の人も少し巻き込んで、子どもに関わり、保育に触れ、その魅力を考えられるような6つの活動を企画し、実践してきました。

6つの活動内容と目指したこと



みんなのviewを集めて

この冊子では、各活動の中で、子どもや保育に関わりをもった人たちがそれぞれの立場から感じたさまざまな声(view)を紹介していきます。「人と人との関わりを大切に」とは、互いの声に耳を傾け、声を交換しながらそこで生まれてくるものを大切にすることです。この冊子を手にとってくださったあなたとも、保育や保育の仕事の本質を一緒に味わいたい、そう思っただけでいい。できれば、魅力的に、みなさまに届きますように。

*viewとは：ある立場から見た考えや声という意味で使用しています。

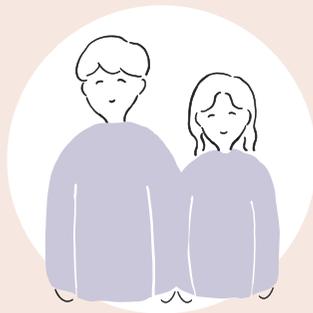
保育という仕事

1) 保育者の仕事とは？

保育者の仕事は、乳幼児期（0歳から6歳）の子どもたちの保育と保護者の支援を行うことです。幼稚園・保育所・認定こども園など、どの施設でもすべての子どもが守られ、自分らしく生き、学び、育つプロセスを支える保育をしています。

子どもの育ちに 関わること

乳幼児期の子どもは、言葉や体の動き、人との関わり、周りのモノ・コトとの関わりなどを学んでいるところです。また、この時期の経験や育ちがその人の生涯にわたる育ちの基盤となる大切な時期でもあります。保育という仕事は、この時期の育ちの特性を学び、ふさわしい保育の内容や方法を探究しながら、一人ひとりの子どもの育ちに関わる専門的な仕事です。

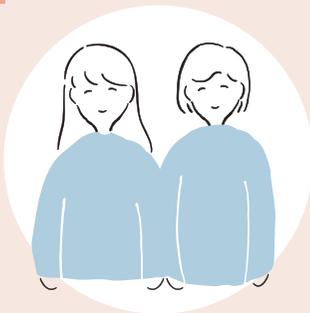


子どもたちの保護者は、我が子の成長を願っていますし、子どもとともにいるよろこびを感じています。しかし、溢れる育児情報に困まれ、保護者自身も多忙さや孤立感に困まれながらの子育てには、心配や不安もつきものです。保育という仕事は、保護者より良い協力関係を築きながら、一緒に子どもの育ちを支える仕事です。

保護者と 関わること

仲間と一緒に すること

子どもを育てることは「大がかりなこと」です。子どもは一人ひとり違いますし、子どもと一緒に毎日はドラマのように予想外のできごとの連続です。その中で、すべての子どもたちの確かな育ちを支えていくためには、一人ではなく、保育者同士、園内外のさまざまな人とチームとなり、力を合わせて仕事をしていきます。



保育の仕事アレコレ

子どもの育ちに関わること



一緒に遊ぶ

保護者と関わること



子どもの様子を伝える

仲間と一緒にすること



保育の打ち合わせや会議



一緒に考える



保護者の相談相手



記録や準備



子どもの相談にのる



クラスの様子を伝える



子どものことを語り合う



生活を支える



係の打ち合わせ



教材準備・環境整備

保育者 という人

保育を仕事としている人の話からは、保育者のライフ（人生・生活）や続いていく道のり（キャリア）、仕事への思い、心に刻まれていることなど、たくさんのことを教えてもらえました。

保育者という人の、ライフ、ワーク、キャリア、イロイロ、深掘りしていきます。

1 保育者のライフとワーク

ある保育者のライフとワークをちょっとのぞき見

幼稚園教諭24年目。東京学芸大学を卒業後、東京都内の区立幼稚園勤務を経て、現在は附属幼稚園でフリーの教務主任として子どもと関わるほか、保護者対応、園運営に携わる。趣味はランニング、和太鼓、手話の勉強、旅行など。違う職種の人と話すことで世界が広がり、趣味が仕事に活かされることもこの仕事のおもしろさだと感じている。



幼稚園教諭
Aさんの場合

1日の時間

6:00 起床 ストレッチ 朝食	7:30 出勤	8:15 勤務開始 環境整備	9:00 園児登園	13:40 園児降園 環境整備・教材準備	17:00 勤務終了	18:00 退勤 ランニングイベントに参加	夕食	22:00 就寝
---------------------------	------------	----------------------	--------------	----------------------------	---------------	-----------------------------	----	-------------

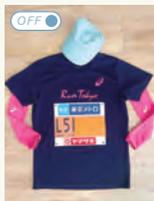
ON



ON



OFF



東京マラソンに出場

OFF



八丈島でダイビング

1日のライフとワークについて

私の一日は朝日を浴びてストレッチすることから始まる。

仕事の時間は、子どもや保護者のことに全力を注ぐ時間。子どもと一緒に遊びのアイデアを考え実現していくことは何年経ってもおもしろい。子どもが帰った後は、先生たちと子どもの姿の共有や打ち合わせ。頼れる仲間存在はありがたい。

仕事を終えると、「先生」ではない自分の時間。自分の好きなことを見つけて、一生懸命取り組む楽しさを知っている大人は子どもの「楽しい」を支えられる。自分で自分の機嫌を取りながら笑顔で働き続けていきたい。

イロイロな保育者から聞いたライフとワーク

ライフ

- ・猫との生活
- ・ウォーキング、ランニング
- ・買い物
- ・友達との食事
- ・同期との情報交換
- ・ドライブ

- ・おいそなパン屋さんに行く
- ・図書館で過ごす
- ・推し活、ライブ
- ・ものづくり 染め物など
- ・料理

ワーク

- ・頑張りすぎず息抜きしながら、メリハリをつけて働く。
- ・自分の自由になるお金がもらえるってこと。これも大切なこと。
- ・土日に仕事をしていることは、ほとんどない。平日に仕事回るように組織も仕組みを組んでいるし、仕事内容を見直そうとする世の中の流れになっている。



ライフとワークの循環サイクル

「ワーク・ライフ・バランス」については、社会的に認知度も高くなってきている昨今。大学生もワークだけではなく、ワーク以外の自分らしいライフを送れるかどうか非常に関心があるようです。

この事業で出会うことのできた保育者の中にも、ワークからの切り替えや息抜きとして、自分の好きなことや趣味を思い切り楽しんでいる人が多くいました。また、自らのライフにおいても、子どもや保育のことを考えたり、学びや自分の経験を広げたりして充実させている人もいました。

いずれにしても、おもしろいなと思ったことは、保育者のライフが充実するとワークも充実するということです。つまり、保育者がその人らしくいること、家族との生活や自分の生活スタイル、こだわりや好きなことが、自然と子どもとの生活・遊びにもつながり、保育も充実していく、また逆も然りという循環サイクルが見えてきました。それは、「子どもと過ごすことも好きだし、この仕事をしている自分が好き」という言葉や「子どもや周りの人が幸せだと自分も幸せ」という言葉にも表れ、この仕事の特徴となっているように思います。

保育という仕事の魅力を感じながら道のりを歩み続けている人たちは、この循環サイクルを自分で意識したり、周りの助けも得ながらうまく回るようにしたりしている人が多かったです。ライフとワークの循環はその保育者なりの道のりにいろいろと与えているように見えました。

2 保育者の道のりをいろいろと見る ライフとワーク

3 続いていく道のり

保育という仕事は、「なる」ために学び「はじめ」、「なる」ことができた後も、学び「つづけ」、働き「つづけ」て、自分の人生の一部となっていきます。このような綿々と続いていく道のりをキャリアと呼びます。仕事が続いていく道のりには、紆余曲折も・・・。



教えてあなたの キャリアストーリー



Aさん
の場合
幼稚園教諭

1 はじめる

学生時代の思い出は実習。担当クラスの子どもに「あっちいって」と言われる。めげずに関わり続けて最終日・「せんせいすき」と地面にかかれ涙。私、幼稚園の先生になる！

2 なる

保育者になって初めての担任。片付けの時「先生、時間とめてきて」と子ども。おもしろい。話を聞いてくれる先輩、遊びに連れていってくれる先輩に心強く楽しく支えてもらった。

3 つづける

特別支援教育との出会いや研究主任となることで得た新たな学びは世界を広げてくれた。仲間とのつながりも深まり、保育がもっと楽しくなってきた。自分も成長してる。

4 これから

何年経っても1日として同じ日がなく、子どもとの毎日は本当におもしろく、自分らしくいられる。卒園した後の子どもの成長も見続けられる嬉しさ。これからも楽しみ。

4 おもしろいから続いていく

正解が一つではないおもしろさ

キャリアを数年重ねた人たちが、口を揃えたように語った言葉があります。

「正解が一つではない仕事」「答えがわからないからおもしろい」「ずっと考え続けられる」という保育の仕事の本質に迫るような言葉です。

確かに、保育の仕事に唯一の正解はなく、だからこそ「これでよいのか」を常に考え、学び続ける必要があります。また、だからこそ、一人ではなく誰かと知恵や力を合わせて行う必要がある仕事です。

ただ、大学時代にそのような話をしても、正直ピンときていない顔をする学生も多いものです。ところが保育者として数年経つと、わからなさや正解のなさを不安に感じるのではなく、むしろ追求することや考え続けることをおもしろがりながら、仕事をしている姿がありました。

だから、何年経っても「毎日が新しい」という言葉が出てくる。続けていけばいくほど、もっとおもしろくなる仕事だし、もっともっと奥深いところまでいける。そう銘ずるとともに、その本質に届くまでにはある程度の時間や経験が必要なのだと気づくことができました。



保育者

VIEW



保育の魅力を考える



今まさに育てている子どもがいて、関わり合い、一緒に生きる場所。子どもと一緒に笑い、子どもたちのにぎやかな声、元気な足音が響き合う空間。子どもをめぐる、いろいろな人が知恵と力を合わせて営む時間。遊び、森、食、アート、土、山、自然・・・日本には特色をもつ保育施設が豊かにある。大学生も一緒に保育者の声に耳を傾けて、保育の魅力を集めてみました。



保育者viewでは、「魅力的に働く保育の職場訪問」「ホームカミングDay」「プチ研修会と研修動画作成」「オープンキャンパス」などの活動から生まれた保育者の声を紹介します。



よろこびがたくさん

子どもの成長にこんなに近くで関われる仕事は他にないだろうと常々思います。よろこびを感じるのは、保護者と一緒に子どもの成長を共有できたとき、担任していた子どもが保護者となり再会できたとき、大きくなった教え子の活躍を聞くとき。ごほうびのように感じます。



あるけど・・・

難しさも

働き出してすぐの頃は、子どもの背景にある見えない部分を理解していく難しさもありました。それでも、自分の心に余裕がもてると子どもへの接し方も違うなと気づいて、少しずつ変わっていきました。

なんだかんだ楽しい

子どもってかわいい、子どもっておもしろい、どこまでもおもしろい。そんな子どもたちと一緒に過ごす時間は特別なもので「なんだかんだ楽しい」。かわいいだけでなく、大人が思っているよりも自分で何とかする力をもっている子どもたちのパワーにも日々支えられています。



互いに補い合って

頑張るけれども、頑張りすぎるのはよくないので、周りの先生のカも借りています。チームでの新しい先生たちとの出会いや異動が、自分の考えを新たにしてくれたり、新鮮な感覚や気持ちをもてるようにしてくれたりします。自身の子育て期は、仕事半分では帰らないといけないこともありますが、自分がその時期を超えたら支える人になろうと決めています。

魅力

未来につながるすごく幸せな仕事だと思います。子どもたちといると、自分自身が成長できることもやりがいにつながっています。先生と言いつつ、いろいろなものになれるというおもしろさも。一番の魅力は子どもの成長に尽きるのではないのでしょうか。

大学生

保育の魅力を考える

VIEW



仲間とともに学び合い、笑い合い、たくさんの経験を培っていく大学という場所。そこにいるのは、保育を学びたいという同じ方向に向かって歩き始めた大学生たち。将来、保育者として働くことに憧れを抱き、期待感で胸を弾ませ、ときには不安や悩みも抱き、もがきながら成長する日常がある。今まさに「子ども」や「保育」について学んでいる大学生に保育の魅力を聴いてみました。

大学生viewでは、「魅力的に働く保育の職場訪問」「ホームカミングDay」「パパ・ママ子育て体験」「オープンキャンパス」特別企画「学生に聞いてみた」などの活動から生まれた大学生の声を紹介します。



かわいにかこまれている

子どもって、とにかくかわいい！子どもと関わるワクワク感や楽しさに、たくさんの元気をもらえます。「毎日こんなにかわいい子どもたちに囲まれて働けるなんて最高！」と、保育を学び始めた1年生はキラキラと目を輝かせています。



子どもと一緒に成長していける

子どもと関わり一緒に悩んだり、思いつき楽しんだりする中で、いつの間にか自分自身も成長していることに気づかされます。子どもの成長を支え、一緒に過ごす日常の中に、実はたくさんの学びや発見が隠れています。実習を経て、子どもと関わり、働く保育者の姿から学び、将来保育者として働くことを想像しながら学びを深めています。

成長を見守る幸せな家庭空間

子育ては楽しいことばかりではなく大変なこともたくさんあると実感しました。しかし、あっという間に成長していく子どもの今を見守り、子どもの成長をよろこぶことができる温かく幸せな空間でもあることにパパ・ママ子育て体験を通して気づきました。



子どもの笑顔を引き出すことができる

子どもの興味・発達に合わせて遊びを提案したり、声をかけたりする援助で、子どもが笑顔になるときが「嬉しいな」と思える瞬間です。子どもの笑顔にはいつもたくさんのパワーをもらえます。

忘れた自分を 取り戻す

子どもと関わることで、子どもの純粋な思いや興味に気づき、いつの間にか忘れていた「子ども心」を取り戻すことができるような仕事かなと思います。学んでいて、子どもの柔軟な思考や発想って本当にすごいと驚かされることばかりです。

保育の魅力を考える

大学教員

VIEW



子どもを育てる人を「育てる」場所。子どもが好きで、子どもに関わる仕事を志す大学生、子どもや育てる営みを学問することのおもしろさを分かち合いたい大学の教員、大学生の学びや生活を支える職員…。毎年、子どもを育てる人を送り出し、戻る場所として居続ける。その営みを歴史的に見続けてきた緑あふれるキャンパスに響く声、集めてみました。

大学教員viewでは、「魅力的に働く保育の職場訪問」「ホームカミングDay」「プチ研修会と研修動画作成」「パパ・ママ子育て体験」「オープンキャンパス」特別企画「学生に聞いてみた」などの活動から生まれた大学教員の声を紹介します。



たしかな場所があること

巣立っていった学生との再会ホームカミングDay。それぞれの園で保育を探らし、迷いながら、一步、また一步と歩んでいる、そんな様子が嬉しい一日でした。

正解が一つではない仕事だからこそおもしろさがある。けれど、悩みもなくなる。

だからこそ、育った場所に戻ってきて、間違った方向にいていないよって思える機会が大切なんだなぁと感じました。

保育者を育てる営み（養成教育）のその先を、卒業生の「今」が教えてくれました。答え合わせができたような感覚が溢れました。

魅力ある保育者になっ
ていく

学生とともに各地の幼稚園、保育園などを訪問しました。保育を仕事にする人々に出会い、この仕事の魅力を語る。その道のりは、それぞれがオリジナルストーリー。

大学という学び舎をあとに、保育という仕事と喜怒哀楽をともにしながら、魅力的な保育者になっていくのだと実感しました。



保育の魅力を シェアしたい！

オープンキャンパスでは、「幼稚園教員の魅力」を語る企画を実施。附属幼稚園に高校生、保護者の方々を招いて、保育の魅力を伝えました。高校生のキラキラとした目、学びたい、知りたいという好奇心に、大学教員である私たちの方が刺激を受けました。高校生からは、「先生方の話がおもしろく、確かに魅力を感じました」「先生がすごく楽しそうで憧れます」という嬉しい声が届きました。



多様な経験から自分らしい 保育者になってほしい

保育を学び、つながった仲間たち。学生時代の教育・保育実習、ゼミナール、ボランティア活動、アルバイト、多様な経験から、自分と向き合い、自分の好きや得意を活かした、その人らしい保育者になってほしいと願います。

子どもに出会って
こんなに変わる…

大学では見せない顔を子どもたちの前で見せる。子どもという存在の魅力を、学生の姿を通して再確認できるって幸せなことです。

大学生が、子どもと出会って素直に、無邪気に笑っている姿を目にすると、子どものもつ力の偉大さを感じずにはられないのです。保育に関わる仕事の魅力はこんなところにもあるのかもしれない。

家庭・保護者

保育の魅力を考える



VIEW



すくすくと元気に育ってほしいという願いが溢れる場所。子どもの成長を見守る温かいまなざし、自由さ、やわらかさがつくる幸せなオーラ。自分しかけがえのない存在だと確認できる居場所、拠りどころ、暮らす場、帰る家、HOME。子どもも、親も、保育をする人も、一緒に楽しく、心強い道のでありたい。子どもの傍らにいる人たちから、聞こえてきた声にそっと耳を澄ませてみました。

家庭・保護者viewでは、「パパ・ママ子育て体験」「オープンキャンパス」などの活動に参加した子どもの保護者、高校生の保護者の声を紹介しています。

子どもにはたくさんの人との

関わりの中で育ってほしい

そんな機会を親として求めています

日頃から家庭や保育園だけでなく、たくさんの人との関わりの中で育ってほしいと考えています。今回は、大変貴重な機会だったと感じています。次はいつ学生さんに遊んでもらえるのかと子どもから何度も聞かれています。



じっくり遊んでくれる大学生の関わり…

子育てを振り返る機会に…

子どもの要望に合わせて、じっくり遊んでくれる学生さんとの時間を楽しんでいる我が子。子育ては時間に追われる日々だけれど、子どもとの遊びを一緒に楽しむ、そんなひとときをもちたいと感じました。

好きを仕事に！
やりがいをもてる仕事

オープンキャンパスに参加したいという子どもについて来ました。在学生、先生方のお話から保育者の仕事は魅力的だなと。附属幼稚園の園見学では、先生たちご自身がお仕事を楽しんで、子どもたちとの関わりを大切にしていると感じました。

中学生

保育の魅力を考える



VIEW



早く大人になりたい気持ち、ならなきゃいけないと言われるのは少し嫌な気持ち、まだ子どもでいたいな—という気持ち。いろいろな気持ちに揺れて経験を重ねながら自分を見つめる大事な時期。小さい子どもとの距離感やイメージはみんなそれぞれ。そんな中学生に子どもの印象、保育の仕事、感じたことを聞いてみました。

中学生viewでは、「中学生の遊び体験授業」の活動から生まれた中学生の声を紹介します。

もっと子どもが好きに

子どもたちの感情が豊かなこと、とても頭を使っていること、発想力や小さなひらめきに驚きました。子ども同士の楽しさ、賢さを改めて感じ、もっと好きになったし、もっと知りたいと思いました。

思っていたよりも…

子どもって、人のことをよく見て、考えているのだな。自分でちゃんと考えて実行する力があるのだな。とても深く考えていて、ちゃんとけんかもしてよるこんで、喜怒哀楽のある人間なんだな。(率直に、子どももたくさんの力をもっていると感じました。)

自分を振り返る

幼稚園のときの記憶がよみがえってきてすごく楽しかったです。服のサイズを聞いて、自分もあれを着ていたと考えると驚しなくなり、自分もよく成長したな、人間の成長力はすごいなと感じました。今でも楽しかったと思える生活にしてくれた先生方に感謝の気持ちでいっぱいです。

苦手意識がやわらいだ

これまであまり好きではなかった子どもについて、かわいらしさやすごさを知ることができてよかったです。子どもにしっかりと訴えかければ聞いてくれるのだなと知ることができました。

保育の魅力をみんなで考える

あつまれ、みんなの声！ 200もある魅力

事業を通じて出会った様々な人に保育の仕事の魅力は？
を尋ねてみました。

集まった声はトータルで200。

そのうちのいくつかを丸いこだまにして飛ばしてみました。



Epilogue



子どもの魅力に惹きつけられて

これまで紹介してきたさまざまな声。その声の色はやっぱりどこかに明るさが伴う。

それはおそらく子どもという存在がもつ、ものすごく大きなパワーによるもの。子どもとの生活は毎日が新鮮で、おもしろくて、変化に富んでいる。「後でじゃなくて今がいい」という子どもの願いに寄り添い、すぐ先の未来に向かって常に動いている。そんなふうにして子どもと今の時間や空間を一緒に生きる。そのときの積み重ねが、子どもを育て、子どもに関わるすべての人を育てる。これは保育の仕事の魅力と言っている。その原点は子どもの魅力にあります。

タイトルに込めた思い

私とあなたが、どこかに向かってギュッと集まって、同じように歩いていく、その一緒に楽しく心強い道のり。時間や空間を隔てても、私とあなたが違うことを思い描いても、ともにあると感じられるしっとりとした道のり。保育の仕事には、その両方が必要です。「一緒に”笑う”ともに”育つ」というこの冊子のタイトルには、そういう人と人との間にある心の機微みたいなものの尊さ、関わりの質を大切にしたい想いを表現しました。また、子どもの魅力が弾ける空間のもつ明るさや笑い声、幸せなオーラも多くの人に響いてほしいという願いを込めました。

広がれ、響け、こだませよ

この冊子を手にとってくださったあなた。保育の仕事の本質を少しでも感じとっていただけたでしょうか。保育の仕事に対するこれまでの社会的イメージが、広がったり、具体的になったり、もっと知りたいと思っていただけたら、幸いです。私たちは保育関係者なので、ここに書かれていることは自明のこと、だったかなとも思います。ただ、当事者であるからこそ、あえて言葉にしなかったり、当たり前すぎて、改めて考えてもいなかったりしていたことに気づくことができました。

この事業ではさまざまな人との出会いを大切にしてきました。それぞれの人のもつ声 (view) に耳を傾け、声を交換しながら保育の仕事の魅力が生み出されていくことを期待して活動を進めてきました。実際にその声は力強く、勇気づけられるものが多かった。

でも、声は近くにいないと聞こえないし、すぐに消えてしまう。

だからこそ、文字にしたり、写真にしたり、映像にしたりして、時間を一緒にしていないあなたとも、空間をともしないあなたとも、その隔たりを越えていけるようにする必要があります。少しでもあなたに伝わり、あなた自身の声 (view) が生まれたら、これほど嬉しいことはないです。ぜひお寄せください。

ただ、見えない壁の向こうにあると思われてしまう保育の営みを突破していくには、まだまだ届いていない人たちがいますし、まだまだ発見できていない魅力があるのだと思います。今回生まれてきた声、見えてきた魅力がこだまとなって広がっていくために、私たちも考え、実践し続けていこうと思います。

最後に、この事業の趣旨にご賛同いただき、快くお話を聞かせてくださったみなさま、活動に参加し、活動運営にご協力を賜りましたすべてのみなさまに、心より感謝します。

すべては子どもたちのために。

幼児教育の未来をあなたも一緒に
東京学芸大学 幼児教育コース 附属幼稚園

一緒に笑う ともに育つ — 保育という仕事 —

2025年1月31日発行

発行 東京学芸大学幼児教育コース・東京学芸大学附属幼稚園
編集 平野麻衣子・八木亜弥子・中山夏帆・小島好美
デザイン 小俣美香子 (mikako omata DESIGN)
撮影 背戸淳志・岩田彩華

[Special Thanks] 磐田市立竜洋東こども園、学校法人北広島竜谷学園広島幼稚園、学校法人裕学園谷戸幼稚園、企業主導型保育事業ひより保育園、江東区立豊洲幼稚園、東京学芸大学幼児教育コースの学生、教職大学院幼児教育サブプログラムの学生、東京学芸大学附属中学校、東京学芸大学幼児教育選修卒業生、学芸の森保育園、子育てラボ

©2024 Tokyo Gakugei University

令和6年度「大学等を通じたキャリア形成支援による幼児教育の「職」の魅力向上・発信事業（「職」の魅力向上と人材確保の好循環を生み出すモデル創出事業）」



そのほか本事業に関する動画は
こちらからご覧いただけます

